

健全度回復！ 平成19年度 決算

平成19年度決算（一般会計、12特別会計、3事業会計）が市議会9月定例会で、決算特別委員会の審議を経て承認されました。

決算は、平成19年4月から平成20年3月までの1年間に、どれだけの収入があり（歳入）、それがどのように使われたのか（歳出）を分類して集計したものです。

一世帯当たり124万円

平成19年度普通会計決算（一般会計と一部の特別会計を合わせたもの）は、歳入決算額が248億2,011万円、歳出決算額が240億6万円となりました。一世帯当たりでは、歳入が128万2千円、歳出が124万円となりました（平成20年3月31日現在、世帯数19,360一世帯、平均2.8人で計算）。

それでは、その中身はどのようなものでしょうか。高島家の家庭を例に見てみましょう。

ただ来月の支払い（繰越事業）に備えて3千円置いておくと、残りが3万9千円。先月は6万4千円あったことを考えると、今月は2万5千円の赤字ね。

預金や借金の方はどうなの？

先月は定期預金が42万2千円あったけど、今月は1万2千円解約して、新規に1万4千円預金したから、2千円増えているわ。

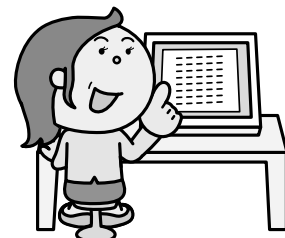
そして、借金の方も、銀行から7万4千円借りたけど、21万8千円（うち利息3万4千円）を返済したから、今月末のローン残高は185万2千円。先月より11万円減っているから、良い方向に向かっていくんじゃないかとこころかしら。

いろいろやりくりしてもらって、いつもすまないね。

高島家の家計簿

※わかりやすくするために、家計簿で使う用語にあてはめています。

収入		支出	
給料	40万円	食費	28万2千円
市税・分担金及び負担金・使用料及び手数料・財産収入・寄附金・諸収入		人件費	
親（国）から	60万3千円	ローン返済	21万8千円
地方譲与税・国有提供施設等所在市町村助成交付金・国庫支出金・地方特例交付金・地方交付税・交通安全対策特別交付金		公債費	
親（県）から	12万3千円	子どもへ	28万9千円
県税交付金・県支出金		補助費等、投資及び出資金・貸付金、特別会計への繰入金	
銀行からの借入金	7万4千円	光熱水費・燃料費	13万6千円
市債		物件費・維持補修費	
普通預金	7万円	医療費・介護費用等	12万6千円
繰越金		扶助費	
定期預金の解約	1万2千円	住宅改修・家電製品購入	11万7千円
繰入金		投資的経費	
		教育費	5万8千円
		物件費（教育費）	
収入合計（A）	128万2千円	銀行等への預金	1万4千円
		積立金	
		支出合計（B）	124万円
貯え（差引額：翌年度繰越）			
			4万2千円
定期預金	42万4千円	ローン残高	185万2千円
比較	2千円増	比較	11万円減



高島家の台所事情

高島家は、サラリーマンの高夫さん、パート勤務の島子さん、大学生の高史さんの3人家族。

お母さんが、家計簿付けにいそいそとします。

今月の収入は、どうだった？

※この物語では、年間決算額をひと月に例えて表しています。

今月は128万2千円だったわ。お父さんと私の給料の合計が40万円、先月より3万7千円増えているけど、親からの仕送りの72万6千円と銀行からの借入金7万4千円が無いとまだまだ家計が成り立たないわね。

じゃあ、支出は？

今月の生活費は124万円。

まずローンが21万8千円で、先月に比べ2万1千円増えているの。返済額が毎回増えているけど、きっちり返せているわ。それと、高史の学費などで1万円、光熱水費と燃料費で8千円、医療費・介護費用で7千円それぞれ増えているけど、

家計

教育費

ローン

食費や住宅改修などが減ったので、どうにかやりくりができています。

じゃあ、今月は黒字ってことだね。

単純に差し引きすると4万2千円の黒字だけど、

もって知りたい

歳入

平成19年度の歳入決算額は、前年度に比べ39億3,867万円、13.7%減少しています。

これは、市税が税源移譲により11.5%増、財産収入が22.5%増、県支出金が17.0%増となる一方、市債が合併特例債（基金造成分）の完了により71.0%減、国庫支出金が三位一体の改革により13.5%減、地方交付税が2.7%減、繰入金金が72.2%減となったこと等によるものです。

